

ユニバーサル・デザインを考える

担当教官 鎌田一雄

- 対象人数：3名（最少）から6名（最大）
- 学外の方々からも支援を受けるので、時間割時間外でも作業を行う。
- 学外へも出るので、傷害保険等は必須である（学生教育研究災害傷害保険）。

●背景と目的

最近、高齢者・障害者にも通常の人たちと同じように使用できる日用品をつくるという「ユニバーサル・デザイン (Universal Design)」の考え方が広まっている（企業戦略としても採用されている）。

- (1) 本当は、ユニバーサル・デザインがどのようなことを主張しているかを考える。
- (2) デザインが、特に情報技術とはどのような関わりあいを持っているかを理解する。
- (3) 広く「ものをつくる」ことと、ユニバーサル・デザインとの関係がどのようなものであるかを考える。
- (4) デザインを、実際にはものをつくらないレベルで、詳細に検討しながら、デザインに必要な事柄を理解する。

●実際の検討

- ・ ユニバーサル・デザインの原理と概念について学習する。
 - ・ 具体的なデザインを考える。
 - ・ ユーザ・設計者の考え方を学ぶ。
 - ・ デザインとは何かを考える
- (注意) ものはつくらない。紙と鉛筆の世界で考える。アイデアが必要。

- 教科書（単行本）を使用する予定である。